

橋下徹大阪市長の「慰安婦制度は必要であった」との発言の  
撤回・謝罪を求める決議

橋下徹大阪市長は、5月13日登庁時にマスコミ会見で「慰安婦問題」について「銃弾が飛び交う中、命がけで走っていく兵士に休息させてあげるために慰安婦制度は必要であった」と発言した。さらに午後の会見では、5月1日の沖縄訪問で米海兵隊の司令官に「もっと風俗業の活用をしてほしい」と求めたことを自ら明らかにしている。

こうした一連の発言は、女性の人権を蹂躪し、尊厳と名誉を傷つける女性蔑視、人間蔑視の発言であり、政治家・公人としてあるまじきことであると日本中、世界中からも批判と抗議の声がひろがっている。

これに対して5月26日に橋下市長は「私の認識と見解」との文書で米軍に「風俗の活用」を勧めた発言は、「不適切であり、撤回しお詫びする」と公表したが、慰安婦問題では、「私の本意とは正反対の受け止め方の報道が続いた」と弁明し、謝罪も撤回の意思も表明していない。

昨年、泉南市では「男女平等参画都市宣言」を決議しており、女性の尊厳と名誉を著しく傷つけた橋下市長の発言を見逃すことはできない。

よって、本市議会は、このような事態を引き起こした橋下市長に対し、心の底から反省し、発言の撤回と謝罪を求めるものである。

以上、決議する。

平成25年6月24日

泉南市議会

**採決結果**

**平成25年6月24日 原案否決**